

マイウェイ

No.40

湯河原まち物語

～わたしの湯河原地図～

監修 高橋 徳 写真 松尾順造

財団法人はまぎん産業文化振興財団



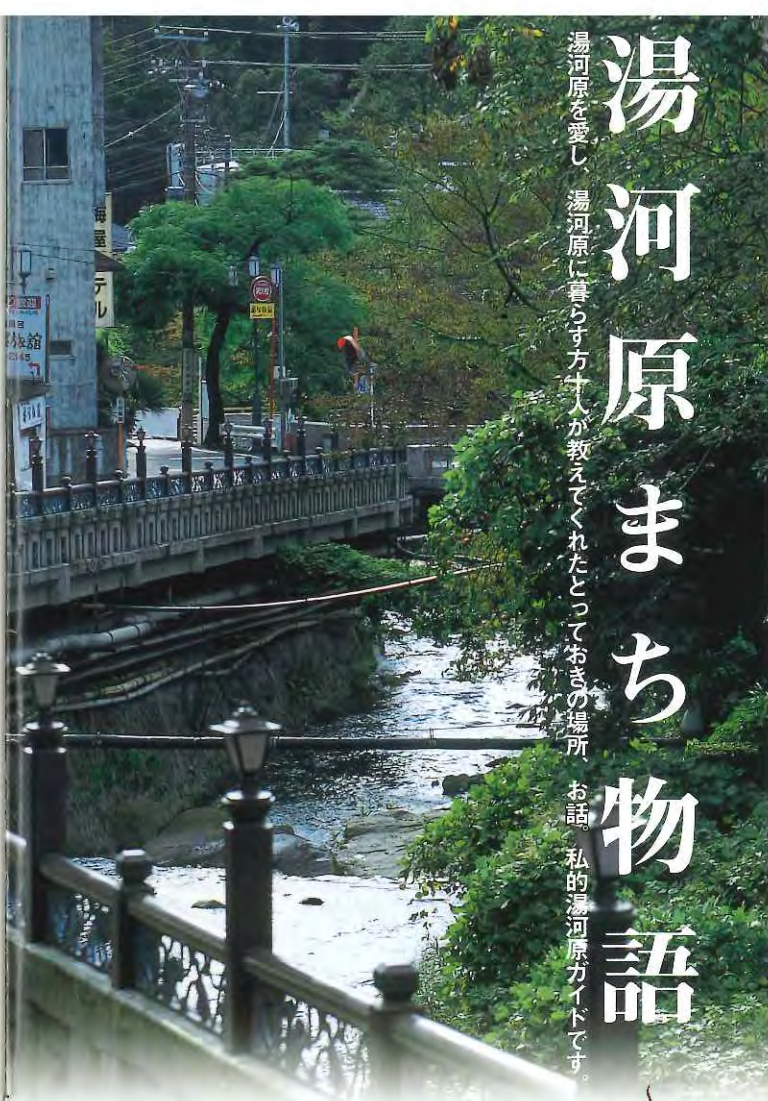
平成12年12月発行 ● 発行人 平澤貞昭 ● 編集人 高橋紀雄 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171 (直通) ㈱西北社 大日本印刷㈱



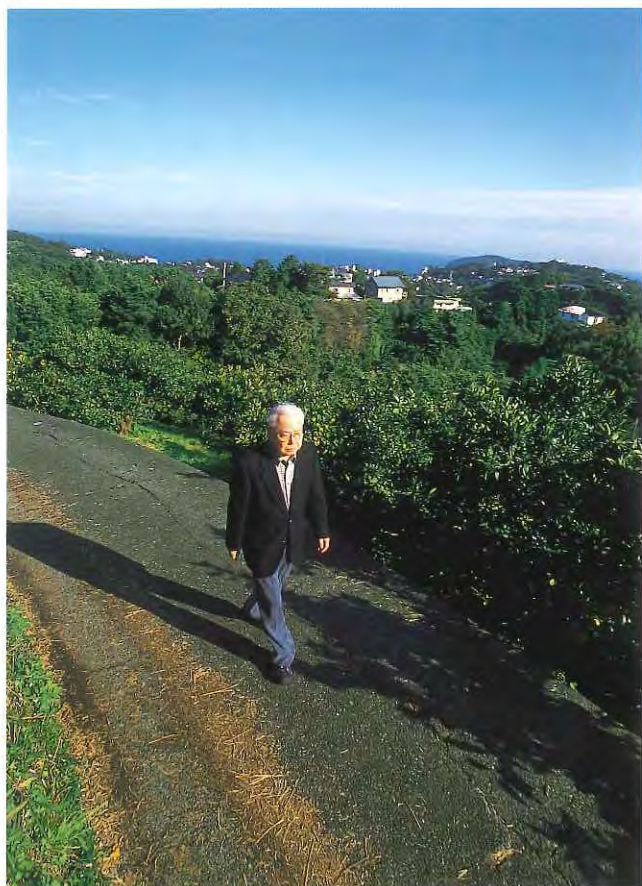
湯河原まち物語

湯河原を愛し、湯河原に暮らす方十人が教えてくれたとっておきの場所 お話。私的湯河原ガイドです。

わたしの湯河原地図



藤木川。藤木川沿いに温泉旅館が並ぶ一帯は温泉場と呼ばれている



自宅近くのミカン畑の間の道を歩く種村さん。
歩く速度は早く、やや駆け足の感じだ

散歩の途中に 立ち寄り湯 種村季弘

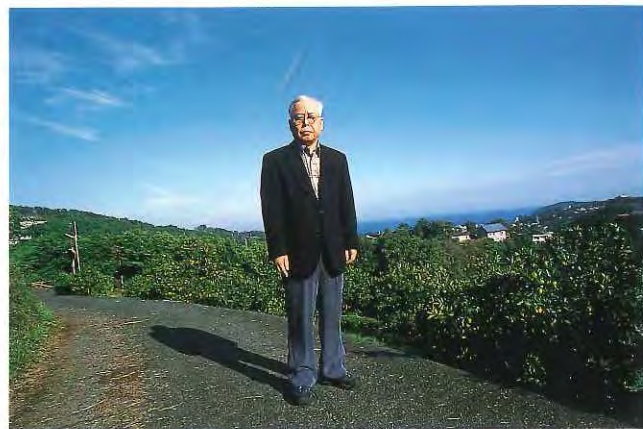
湯河原は海あり、山あり、温泉ありで、好きな散歩を楽しむのに事欠かない。

いつの間にか、仕事は午前中に済ませ、午後は散歩が日課になってしまった。雨の日も歩く。散歩に出ないのは、寒さの厳しい日くらいであるが、湯河原ではそんな日は幾日もないので、毎日歩いているとよいであろう。

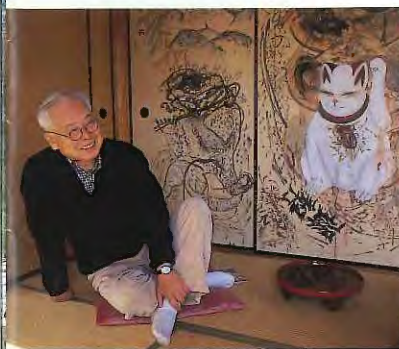
我が家は湯河原といっても、J.Rの駅でいうなら真鶴の方が近い。ミカン畑の



樹間に見えるのは真鶴方面。真鶴の荒井城址公園も好きな散歩道の一つという



真鶴半島から伊豆半島までが一望でき、空気が澄む冬は大島や新島も見える



上/自宅の居間で。襖絵(ふすまえ)は友人の画家の平賀敬氏が描いたもの。右/相模湾に向かう道。種村さん宅周辺はミカンやキウイの畑に囲まれ明るい景色が広がる



山の上にある自宅を出て、雑木林を抜け湯河原町総合運動公園への道や、初島が浮かぶ相模湾を目にしながら福浦の港へ下る道など、いずれも一時間ほどになる。お正月で車が少なくなるときは、真鶴半島の先の方にある中川一政美術館近くまで出掛けることもある。

冬はこの散歩に、立ち寄り湯がある道を選ぶことが多くなってくる。

温泉場にある「ままねの湯」は我が家辺りからでは一駅電車に乗り、バスを乗り継いで行くのが普通であるが、ミカン畑のへりを縫い、一時間半ほどを歩いて行く。温泉場の路地裏にあるこの湯は、とにかく熱い。だが、水でうめると怒ら

れるので、じつとつかって帰ってくる。近くには町営の「こごめ湯」もある。

家から二十五分ほどのところにある「ゆとろ嵯峨沢の湯」は、ミカン畑の道を縫ったあと、立ち寄るのにちょうどよい。

檜風呂と露天風呂があり、露天風呂の真向いにはコバルトブルーの空と海を背景に、真鶴半島の三ツ石と初島が見える。知人が来ると案内し、今では我が家の離れの湯的存在である。

さて、明日はどの道をとろうか。(談)

たねむら・すえひろ ●昭和八年生まれ。作家・独文学者。著書多数。無類の温泉好きとしても知られ、温泉に関する著書に「日本湯遊記」「晴浴雨浴日記」などがある。湯河原町吉浜在住。

「わたしの湯河原地図」

福浦・吉浜・鍛冶屋

福浦、吉浜、鍛冶屋は湯河原の東のまちです。真鶴に接する福浦の小さな漁港、福浦港は洋画家の中川一政画伯が晩年、世界一広いアトリエと称し、筆を振った場所。吉浜、鍛冶屋地区の高台には、明るい太陽が降り注ぎ、眼下には相模湾の青い色が広がっています。



星ヶ山山頂から相模湾を望む。歩きでしかいけないが、湯河原一、見晴らしのよい場所である*1



吉浜に工房を構える高田さん。敷地内のギャラリーで作品を求めることもできる



鍛冶屋の辻に祭られるさいの神。集落に悪病が入るのを防ぐ



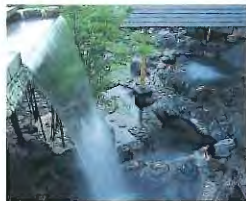
吉浜



福浦にお住まいの高橋さんは、湯河原の歴史研究の第一人者



鍛冶屋にお住まいの本村さん。転勤でやってきた湯河原が今では、故郷に



②吉浜の高台にある日帰り温泉、ゆとろ嵯峨沢の湯。相模湾が一望できる露天風呂が人気*2 ☎0465(62)2688



城堀にある城願寺。上は推定樹齢800年のビャクシン（国指定天然記念物）。下は、土肥一族の墓所



★は各人お祈りの場所。例えが
★高は高田さん ★橋は高橋さんです。

★眺望よし
星ヶ山

幕山中腹の大岩壁。山頂までハイキングコースが整備されている



△幕山

★頂上からの眺望よし。

新崎川

鍛冶屋



鍛冶屋の早藤さんは20年前にアメリカでブルーベリーを知り、栽培を始める

早藤果樹園

福原野

湯河原野

湯河原銀行



駅前の名店街に建つ湯河原支店

湯河原町総合運動公園

型染工房 たかた

山野草とスケッチ

さいの神

ゆとろ嵯峨沢の湯

福原野

福原野

福原野

福原野

福原野

福原野

写真①



福浦港。赤い防波堤灯台の下で、中川画伯は絵筆をとっていた



*1 写真提供/湯河原町観光産業課 *2 写真提供/ゆとろ嵯峨沢の湯



本村さんは年季の入った藤間流の舞い手。宴席で舞うと、芸者さんが近寄らなくなったとか

糊置きという作業をする高田さん。工房では型染めの体験教室も行っている



上/早藤さんの畑。これから1月、2月は文旦の季節。左/自家製のジャム。毎週日曜日、温泉場の観光会館前の朝市で販売している



高橋さんに港を案内していただいた。高橋さんは、関東大震災の時、福浦の海岸が干上がったのを目撃した。その数分後、津波が来たという。右の写真、船の向こうに見える三角の山は岩戸山で、地元では湯河原富士と呼ばれている



二つの国指定天然記念物と古い歴史が息づくまち

高橋 徳さん
郷土史家

湯河原には、神奈川県には六つしかない国指定の天然記念物が二つあります。城願寺にあるビヤクシンとその近くの山中にあるホルトの樹叢です。城願寺は、石橋山の合戦で敗れた源頼朝を助けた土肥実平の菩提寺で、境内には一族の墓が並び、県史跡に指定されています。

湯河原はお隣の真鶴を含めて、万葉集や吾妻鏡にあるように、古くは「土肥」と呼ばれていましたので、町では近年開発された駅下地域を記念し、新たに「土肥」と名付けました。※動物の種指定は含めず

湯河原の豊かな自然を染め上げていきたい

高田 正彦さん 型染作家

直談判で弟子入りした、師の芹沢銈介先生の元から独立して、工房を構えるときに、温暖なところで仕事をしたいと思

い、東京から移り住みました。身近で美しい草木を目にでき、作品も変わってきました。幾何学的なものから具象になり、シンプルになっています。

今、ライフワークとして追っているのはミカンの木の樹幹です。接ぎ木された古い木は、幹が太く枝をうねうねと横に這っています。その樹幹のねじれが魅力的で、染めに取り入れたいのです。

◆型染工房たかた ☎0465(62)8020

湯河原には三つの太陽がある
早藤 義則さん
早藤果樹園芸

この辺のお年寄りは、湯河原には太陽が三つあるといいます。それは空と海と石垣です。空の光と海の日差しの反射、そして石垣の保温力。この三つが、おいしいミカンを育ててきたというのです。うちでは、ミカンのほかに、ゆず、文旦、レモン、ニューサマーオレンジ、キウイ、ブルーベリーなどを、有機農法で育てています。時折、猪が好物のミミズを狙って、畑を掘り返したりもするのですが、考えようで、代わりに畑を起こしてくれているのだと思っています。

◆早藤果樹園芸 ☎0465(62)3278

子供達の故郷として、湯河原の家を守る

本村 孝治さん

転勤で来まして、暖かく住みよかったので、昭和二十三年に家を構えました。旅館を建てたり、直したりで湯河原には腕のいい大工がたくさんいますね。私の設計で、細部にもこだわったのですが、満足いくものにしてくれました。

私は札幌の生まれなんですけど、大都市化によって市内は発展変貌し、生まれた家もなくなり、故郷という思いがしないんです。子供達にはそんな寂しい思いをさせたくありません。だから、子供達が育った湯河原の家を故郷として、守っていてやりたいと思っています。

温泉場

清らかな水音が町中に響く、温泉場歴史は古く、万葉集にも詠まれています。藤木川に沿って宿が立ち並ぶ山あいの湯は、明治中ごろ以来、多くの文人墨客に愛されてきました。

温泉場の古い呼び名がついた町宮の日帰り温泉「こごめの湯」
☎0465(63)6944



(写真提供/湯河原町観光産業課)



島崎藤村ゆかりの宿、伊藤屋の館主、伊藤さん



湯河原名物さび餅の老舗、小梅堂のご主人、小松さん



頼朝拳兵の際、土肥実平が戦勝を祈願した五所神社。本殿は県指定文化財

湯河原にゆかりがある画家の作品を集めた「湯河原ゆかりの美術館」の館長、庄田さん



だるまの滝、日本画家の大家、竹内栖鳳(せいほう)が散歩によく訪れたという

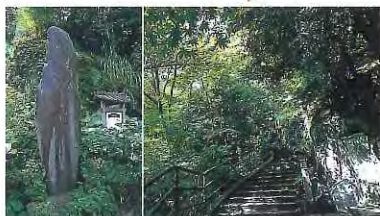


不動滝

早咲きの桜が咲いた湯河原ゆかりの美術館
まねの湯
平成13年新名所 独歩の湯が
万葉公園
ホテルの名所
温泉場
伊藤屋
小梅堂
川落合橋
観光会館



温泉場の路地裏にある「まねの湯」。湯治旅館だが、お湯だけの利用もできる
☎0465(62)2206



万葉公園。園内には万葉植物が植えられ、観光会館わきには、湯河原を詠んだ万葉集の歌碑が建つ。初夏には花木園でほたるの宴が開かれる



観光会館2階の郷土資料展示室。湯河原と関係の深い文学者の資料や町の古い写真を展示。下は、明治期の湯河原の絵地図

温泉情緒ある町並み

子歳川

肩から上しかない、陶製の釈迦像。福泉寺の首大仏。千歳川が景境になっており、住所的には静岡県熱海市になる



福泉寺

楠の木が二本
五所神社

JR東海道新幹線

JR東海道本線

0 500 1000m



湯河原で描かれた絵と
画家の散歩道を楽しんで

庄田光良さん

湯河原ゆかりの美術館館長



風光明媚で温泉があり東京からも近い湯河原は文人墨客が多く訪れました。竹内栖鳳や安井曾太郎は創作活動も行っています。湯河原で描かれた絵をこの美術館で楽しんで欲しいですね。

美術館は天野屋旅館の本館だった建物です。栖鳳は天野屋の離れにアトリエを構え、この本館前を抜け、落合橋辺りまで散歩をしていたそうで、今この道は竹内栖鳳の散歩道と呼ばれています。

温泉がわくこの辺りは、地面の中も温かいのでしょうか。美術館の庭に大きな緋寒桜があるので、一月の末に花が見られるんですよ。

◆湯河原ゆかりの美術館 大人600円 9時〜16時30分 水曜休み ☎0465(63)7788

祖母のお菓子

湯河原名物に

小松征二さん

小梅堂主人



きび餅は、大正の終わりごろ、お土産にする名物は何もなかったため、祖母が自分が好きだったきび入りのノシモチに甘みを加えて出したのが始まりと聞いています。それ以来島崎藤村さんや谷崎潤一郎さんらいろいろの方がごひいきにしてくださいまして、最近では外国の方で、必ず国へのお土産にお持ちになる方もいます。

湯河原のよいところですか。やはり温泉でしょうか。家に引いていて毎晩つかっているせいか、旅行に行っても温泉じゃないと湯冷めしてしまいます。早く帰って家の風呂に入りたいと思いますよ。

◆小梅堂 7時〜17時 木曜休み ☎0465(63)3325 きび餅(16個)650円 かるかん(10個)1000円



右／奥から温泉まんじゅう、かるかん、きび餅。かるかんは知られざる、湯河原名物。左／建築当時の扁額



右／外観は建築当時の六十一年前のまま。下ノ年代は、はっきりしないが昭和の初めごろか。浴衣姿の湯宿客が列をなす

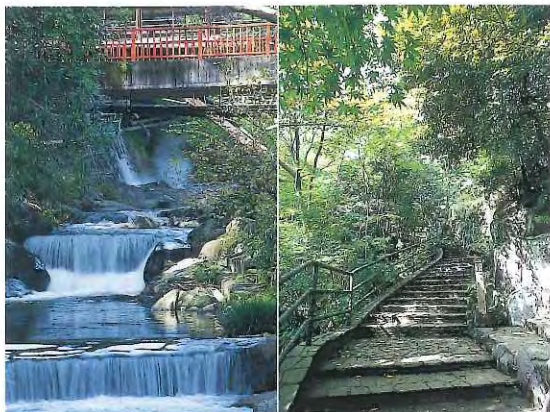


竹内栖鳳の散歩道。旧道で昭和の初めの趣が残る。右／天野屋旅館に架かる橋。この敷地内に栖鳳のアトリエがあった



栖鳳や曾太郎の作品の展示と企画展を行う
(写真提供／湯河原ゆかりの美術館)





伊藤屋からほど近い万葉公園(右)と藤木川(左)。
ホテルのころは宿の辺りでも見られるという



上/伊藤屋に残る鳥崎
藤村宿泊時の会計簿。
右/藤村が家族と訪れ
たときに利用した客室

湯河原の自然で心を癒す

伊藤伸之さん

旅館 伊藤屋館主

鳥崎藤村さんが『夜明け前』の執筆の合間に疲れを癒すため、よくお出でくださいました。

先生は料理にも大変お詳しく、魚が届くと板前はそれを
持って、どういう料理がよいか聞きに上がったそ
うです。大体一週間ぐらいを過ごされました。今は長
逗留されるお客さまは少なくなりましたね。

私は落ち葉でふかふかの山道を歩くのが好きなんで
すが、池峰では、「もみじの道」というコースを整備中
です。湯河原で、ハイキングというのもお勧めですよ。

◆伊藤屋 1人1泊2食 1万6000円〜2万5000円(税金別)
☎0465(62)2004



観光会館近く、温泉場の一角のたえずまい。湯河原は相模湾の幸にも恵まれ、干物も人気の土産の一つ

奥湯河原

「わたしの湯河原地図」

湯河原温泉の渓谷をさらに分け入ると、谷あいに温泉宿が一軒、また一軒と姿を現します。深い緑に包まれた奥湯河原は桃源郷のようです。



⑥ 椿ラインの椿台から温泉場を望む



⑤ 上/文人達が愛した加満田の庭。右/どうだんの間。小林秀雄が植えさせたところから命名された



文人達の足跡を刻む 奥湯河原の静かな宿

鎌田るりこさん 加満田女将

師星照男さん 加満田支配人

「お部屋から野鳥を観察いただけます」と女将のるりこさん。先代の女将と同じに、庭の畑で野菜をつくり、その食材で料理した一品を片手にごあいさつに回ります。加満田は、文人が集った宿。小林秀雄、水上勉、石川達三らそうそうたる名前が並びます。

勲統四十一年の師星さんは水上勉と小林秀雄が印象深いとか。「水上先生は離れて一時期七つも連載を抱えていたことがあり、わからなくなりましたがとお尋ねしたら、君だって七部屋の客くらい覚えてるだろうという答えが返って来ました」。今も、奥湯河原の自然を愛で、足を運ぶ方が多いそうです。

◆加満田 1人1泊2食 2万5000円〜3万5000円(税金別)
☎0465(62)2151



湯河原に関する問い合わせ先

湯河原町観光産業課 ☎0465(63)2111(代) <http://www.town.yugawara.kanagawa.jp/>
湯河原町駅前観光案内所 ☎0465(63)5599 <http://www.ny.airnet.ne.jp/yugawara/>
湯河原温泉観光協会 ☎0465(64)1234 <http://www.ny.airnet.ne.jp/kankou/>
監修 ●高橋 徳(たかはし・あつし) / 大正6年生まれ。元湯河原町議会議長。長きにわたって、湯河原町の歴史研究を行い、湯河原町郷土文化研究会会長、湯河原町文化財審議会委員を務める。湯河原町福浦在住。

上/上村さん。右は湯河原駅前のポケットパークで。白い石は吉浜海岸の石で、京都の仙洞(せんとう)御所の庭石に江戸時代から使われている。中/添加物は一切使用していない銘菓。きび餅、くるみのお菓子(姫のまごころ)共に600円から。下右/ベルギーの市庁舎の広場で。下中/ゴディバのディスプレイ。下左/ディナンクッキーの木型

伝統を生かした風格ある店づくり

(財)はまぎん産業文化振興財団主催の商業従業者海外派遣団に参加して、平成十年に、オランダ、ベルギーを視察してきました。

視察中、現地ガイドの方が、ベルギーは石造りの建物が多く重厚な印象、オランダはレンガ造りの建物が並び、明るい感じがすると評していましたが、まさにその言葉につきます。

海外派遣団に応募したのは、新作の菓子づくりのヒントを得たいという思いがありました。私は土産用の菓子を



海外派遣団員が語る②
ヨーロッパで考えた
伝統と現代性
湯河原町土肥 かみむら製菓 上村恭弘さん



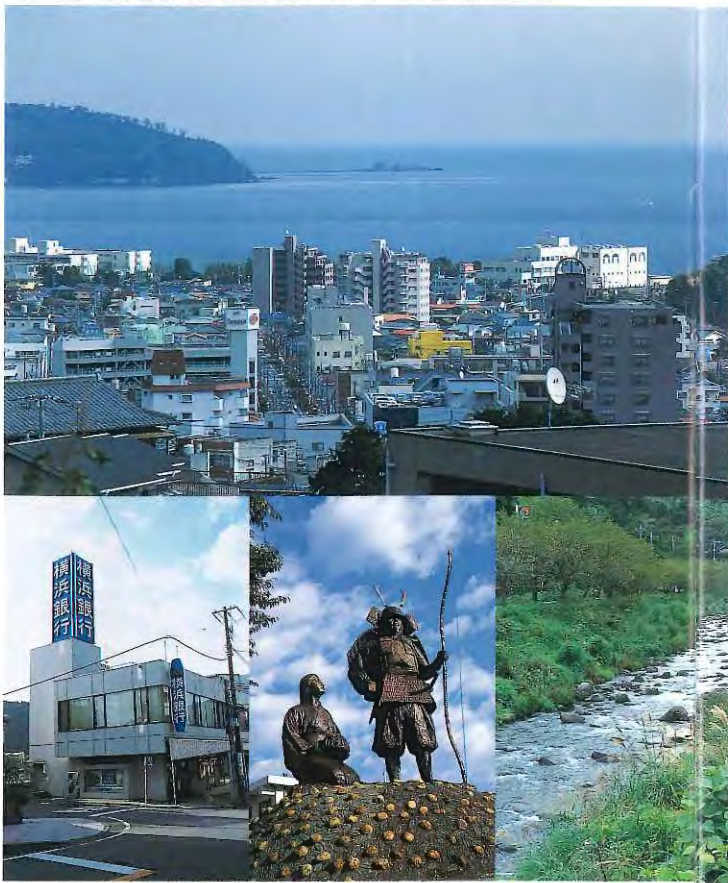
つくっており、日持ちのよさを要求されます。しかし、添加物等人工的なものは使用したくありません。この条件を満たす新しい商品として、チーズを使った焼き菓子が頭にあり、何かアイデアを得られないかと思ったのです。

ブリュッセル(ベルギー)で、老舗のクッキー店「ダンドワ」を訪れました。外から見た感じは、店の間口が狭く、とても入りづらく思えました。が、中に入ると、店は奥に細長く延びています。聞くと、京都と同じで、昔は間口の大きさで税金をかけられたため、古い店はどこも間口が狭く、奥行きのある造りになっているとのこと。この建物も一七九六年に建てられたもので、風格が際立っていました。

そして、壁にはディナンクッキーというクッキーの原型ともいえるべき菓子をつくる木型を並べ、さらに伝統ある雰囲気を出していました。現在、約四十種類のクッキーをつくっているそうです。最も有名なのがベルギーを代表する「スペキュローズ」というクッキー。試食をさせていただきましたが、少しかためでパリッとした感じ。甘みは控えめで、アーモンドスライスが香ばしく、おいしかったです。その他は

る造りになっているとのこと。この建物も一七九六年に建てられたもので、風格が際立っていました。

上/ミカン畑の間に延びるオレンジラインから相模湾を望む。10月から12月中旬にかけては町内全域で、ミカン狩りが楽しめる。下右/鮎釣りが楽しめる千歳川。春には土手の桜並がライトアップされる。下中/湯河原駅前に建つ湯河原の英雄、土肥実平の夫婦像。下左/駅前の湯河原名店街の一角に建つ横浜銀行湯河原支店



甘みが強く、日本人と好みが違うのか、今一つに思えました。

新商品は思案中ですが、今回の視察では店構えについても考えさせられました。小売りの店を出すときは、風格を重んじながらも気軽に入れる店構えにしたいと視察中思ったのですが、その気持ちは今も強く残っています。

いつまでも下駄の音の似合う町で

ヨーロッパの町並みの美しさは、統一がとれていることにあると思います。湯河原でも、町並みの統一を図ろうと、温泉場周辺は商店などを新築する場合、和風をイメージしたものにすると、町が補助金を出しています。湯の町情緒あふれる町並みを残し、再構築し、守っていききたいものです。

子供のころ、温泉場に行くと、下駄の音がうるさいくらい町に響いていました。いつまでも、下駄の音が似合う町であって欲しいですね。

それに、湯河原は心和む町です。横浜や東京に出かけると疲れますが、ここではほっとして過ごせます。時間の流れがゆったりとしているし、安らかな自然が周りにあるからではないでしょうか。町には新崎川と、千歳川の二つの川が流れているのですが、どちらでも鮎釣りとニジマス釣りが楽しめる

んですよ。

これからの季節は暮山の梅林が見事になります。そして少し先になります。五月の第四土曜日に開かれる「湯かけまつり」と六月の初めの「ほたるの宴」。「湯かけまつり」は將軍家に湯河原の温泉を献上した故事に倣い、行っているものです。温泉場を練り歩く神輿に、沿道に用意した樽の温泉を威勢よくかける祭りです。どなたでも参加いただけます。お祭りのため、朝から五時間かけて二千個の樽に源泉の湯を汲むのですが、湯河原のお湯は熱いので夜になって祭りが始まるころに、ちょうどよい温度になるんですよ。(談)



かみむら製菓 ● 足柄下郡湯河原町土肥2-11-7 JR東海道本線湯河原駅から徒歩7分 ☎0465(63)3131/き餅やくるみを使った「姫のまごころ」などのお菓子をつくる。土産店への卸売りが主だが、工場直接、ばらで買い求めることもできる。

上村泰弘(かみむらやすひろ) ● 昭和三十九年、湯河原町生まれ。主に営業を担当。販売先の開拓や、顧客ニーズに合った商品開発の研究に励む。

※(勉)はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として平成元年より神奈川県商工業者の方を対象に「神奈川県商工業者海外派遣事業」を主催。海外の商業文化を視察する機会を提供しております。

ホール

へまぎんホール ヴィアマールからのお知らせ

新春はまぎん寄席

三遊亭円楽独演会

「笑点」の司会でおなじみ、円楽師匠の横浜での久しぶりの独演会。たっぷり二席お楽しみいただけます。

日時●平成13年1月20日(土) 18時30分開演
入場料●2500円(全席自由)



二十一世紀を担う二人の歌手

森麻季&経種廉彦の愛の二重唱

ドミンゴに見いだされた美貌のソプラノ森麻季と次世代を担うテノール経種廉彦のデュオコンサート。三枝成彰の解説を交え、ご堪能ください。

日時●平成13年3月10日(土) 15時30分開演
入場料●3500円(全席自由)

チケット取り扱いブレイガイド

●チケットぴあ

●相鉄ジョイナスブレイガイド

●高島屋横浜店6階チケットショップ

●横浜そごう6階ブレイガイド

●県民ホールチケットセンター

●サウンドポート

●へまぎんホール ヴィアマール

横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店1階

☎045(225)2173

交通●桜木町駅「JR・東急東横線・市営地下鉄」下車「動く歩道利用」5分
<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>

☎03(5623)9999
☎045(319)2456
☎045(311)5111
☎045(465)23555
☎045(662)88666
☎045(243)99999

へまぎんからのお知らせ

年金受給者の皆様へ!

「確定申告説明会」のご案内

平成13年2月1日(木)～14日(水)に、神奈川県内の各地の支店で、所轄税務署の職員の方による確定申告説明会を実施します。

「日程のご照会および「参加お申し込み」は、

へまぎん年金デスク ☎0120(フリーダイヤル)334-0891

または横浜銀行の神奈川県内の各本支店までお気軽にご相談ください。

「確定申告説明会」の主な内容

- 年金受給者で確定申告が必要なのはどのような場合か?
- 確定申告で税金が戻ってくる(還付される)のはどのような場合か?
- 具体的な確定申告の手続きはどうすればよいか?
- その他「年金受給者の確定申告」についてのさまざまなご質問

編集後記

都会の喧騒をあとに二時間余り、ゆったりとした時の流れが身を包み、霧雨が幽玄境に誘う秋の好日。湯河原駅頭に佇むと、谷間の自然の懐に百軒を越す宿を擁する温泉郷があるとは思えない静けさが、その日の町にはありました。

地元商店や旅館のご当主の方々は、観光地「湯河原」の活性化に工夫を凝らす一方で、多くの文人墨客が逗留した温泉郷としての良さを残す努力をも忘れてはいないことが、その町言葉の端々から熱く伝わり、この町に暮らす人々の魅力あふれるお話と

相俣つて、終日心穏やかな取材となりました。

健脚を誇る青壮年層にはトレッキングの基地と疲労回復の湯として、また時として仕事や生活に追われがちな疲れた心を癒す温泉郷としてお薦めしたいと思います。

きび餅の上品な味をめつつ、再訪の想いを膨らませ湯河原の町を離れました。

取材にご協力いただきました皆様には厚くお礼申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団

事務局長 高橋紀雄